

平成23年度私立学校初任者研修 小学校（東日本地区）研修会実施報告

本年度の私立学校初任者研修小学校（東日本地区）研修会が、8月1日（月）から3日（水）の3日間、東京ベイ幕張ホール（アパホテル）で開催され、北は宮城県から南は東京都まで、東日本各地より、定員を大きく超える67名の小学校教員が受講した。

初日は、日本私立小学校連合会事務局長でもある元聖徳学園小学校校長、園田達彦氏の講演「考える力を育てる授業 一脳科学に学ぶ」で始まった。「人間は考える葦」であるという。小学生には、脳力の限界の挑戦させることで考える力を育成し、脳を活性化することが大切であると、園田氏は熱く語っていた。



続く研修は、前成蹊小学校校長、岡崎忠彦氏による実習と懇談「子どもの声が聞こえますか」である。小学校の現場において、様々な事例を挙げて、教育の難しさや課題について、より実践的なお話をいただいた。

研修2日目。まず午前中は、元全日空整備本部教育訓練部チーフインストラクターである中村勝充氏を迎えて、「企業研修から学ぶ」をテーマに、講義と実習を行った。他者とのコミュニケーションをどのようにとるか、実際にロールプレイングをやることで、相手の気持ちを理解することの重要性を学んだ。

午後からは、動きやすい服装に着替えてのリクレーション講習が行われた。講師は健康リクレーション研究所主宰、山田征夫氏で、巧みな話術で受講者を惹き付けた。受講者からは「学校へ戻ったら、特別活動に是非とも導入したい」という声も聞かれた。



夜を迎えても研修会は続く。夕食後の午後6時半から2時間にかけて自由討議が行われ、受講者たちは時を忘れて、教室での日々の悩みや問題点などを議論しあった。

最終日。武蔵野東小学校教頭、市川智氏による講演「多様な子どもにどうかかわるか」では、指導の難しい子どもへの対応を話していただいた。

これを最後に、3日間の研修を終了し、受講者たちは名残惜しそうに、猛暑の幕張を去って行った。

（高山博通）